

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.03) 平成23年度:81-83.

切迫早産妊婦のニーズの明確化とそれに対する援助
— 切迫症状・治療管理方法の異なる2事例への援助を通して —

伊東明果

切迫早産妊婦のニーズの明確化とそれに対する援助

—切迫症状・治療管理方法の異なる2事例への援助を通して—

4階東ナースステーション 伊東 明果

はじめに

A病院は、遠方からの母体搬送やハイリスク妊婦の受け入れ病院である。入院後、点滴・安静治療が必要となる切迫早産妊婦は、入院が長期となることが多い。松本ら¹⁾は、「切迫早産で入院し、日常生活を全て臥床状態で過ごす妊婦は、強い身体的・精神的拘束感を抱えている」と述べているように、切迫早産妊婦は入院生活に強いストレスを抱えている。今まで長期入院で制限がある妊婦に対して、援助の時期や方法・内容は適切であったのか、振り返りたいと考えた。今回、切迫症状や治療管理方法の異なる2事例に対する援助を通して、切迫早産妊婦が抱えているニーズが明らかになったので、ここに報告する。

I 研究目的

長期入院している切迫早産妊婦が、それぞれの妊娠週数でどのようなニーズを抱いているのか明らかにする。

II 研究方法

1. 研究デザイン

事例研究

2. 研究対象

安静臥床で子宮収縮抑制剤の点滴投与している妊婦2名。

3. 受け持ち期間

7月下旬～10月上旬

4. データ収集・分析方法

アセスメントデータベースに沿って情報収集する。看護問題を明確化し、看護計画を立案、評価する。患者から得られたニーズを、基本的欲求に関するマズローの基本概念を用いて考察する。

5. 倫理的配慮

個人的が特定されないこと、自由参加であること、不承諾や中断しても不利益を生じないことを事前に説明、承諾を得る。本研究で得られた情報は目的以外には使用せず、研究終了後、破棄する。

III 事例紹介

【事例1】

A氏、30歳代、初産婦

子宮収縮の増強と子宮頸管長の短縮あり、28週5日にA病院へ母体搬送となる。

家族構成：夫と2人暮らし。

入院中の経過：点滴・安静治療により切迫症状は悪化みられなかった。36週2日に子宮収縮抑制剤の持続点滴を終了し、退院となる。その後39週3日に経膈分娩となる。

【事例2】

B氏、20歳代、経産婦

子宮頸管無力症、切迫早産と診断され、胎胞脱出がみられ、25週5日にA病院へ母体搬送となる。

家族構成：夫と長女と義父母と5人暮らし。

入院中の経過：点滴治療の他、絶対安静のため尿道留置カテーテル挿入となり、排便時以外歩行不可となる。また、臥床のまま食事摂取となる。医師よりB氏と夫に、早産となる可能性が高いことが説明される。その後、胎胞脱出のまま切迫症状の悪化なく経過し、トイレ・洗面可能となる。33週2日に高位破水したが、抗生剤投与しながら安静、点滴治療を継続している。

V 結果

【事例1】ND1 治療計画促進準備状態

目標 指示通りに日常生活活動動作を行う。症状の発現を監視する。必要に応じてヘルスケア提供者にアドバイスを求める。

	言動・行動	看護介入	ニーズ
28～29週	「張ってますか」と子宮収縮の自覚なし 「座っているとお腹硬いです」 「この子のためにシャワー我慢します」	一緒に子宮収縮を確認する 子宮収縮を抑制する行動を説明する シャワー浴1回/週 清拭・洗髪実施	安全 清潔
30～32週	「今はお腹の張りがわかります」 「昨日お腹張ったのでシャワーはしません。」	入院生活を頑張っていることを伝える シャワー浴3回/週	安全 清潔

ND2 知識獲得促進準備状態(特定の)

目標 出生前教育についての重要性について説明

	言動・行動	実施	ニーズ
31週～	「何を準備したらいいですか」「聞いてイメージできました」	学習意欲あり、授乳・育児・分娩について、実施する。育児に関しては夫にも説明する	学習

【事例2】

ND1 治療計画促進準備状態 目標 A氏同様

	言動・行動	実施	ニーズ
25～28週	「まず28週まで頑張りたいです」「週数増えたらもっと髪を洗えますか」	児の予後や後遺症、現在の安静の必要性を説明 NICUのオリエンテーション実施 足浴3回/週 洗髪1回/週 毎日清拭	安全 清潔
29～31週	「驚きましたが、イメージが出来ました」「満足です」	車椅子にて夫とNICUを見学 洗髪3回/週	安全 清潔
32週	産後について具体的な質問あり	シャワー浴1回/週 ファミリーブック渡す	学習

VI 考察

A氏、B氏ともに、安静のため清潔など多くの制限があったが、入院時は切迫症状の安定と妊娠継続への希望を言葉にしており、共通して安全のニーズを持っていたといえる。マズローの基本的ニーズについて秋葉ら²⁾は、「人間は総合的に機能し、まず生存に関して最も重要なニーズ(生理的ニーズ)を満たそうとし、それが満たされるとその次に重要なニーズの充足を求める」と述べているように、人間の欲求とは最下層である「生理的欲求」が充足されて、次の階層へ進むとされている。しかし、切迫早産妊婦の場合、入院時は生理的欲求より、切迫症状の安定と妊娠の継続による胎児の安全が優先される。この安全のニーズは、マズローの欲求の階層の「安全と保障の欲求」にあたると思われる。そのため、入院時は「安全と保障の欲求」の階層にあたる時期であることを理解した上で、安全のニーズが満たされるように、症状悪化を予防する行動、具体的な胎児の状況を理解すること、切迫症状の自己管理できるように関わる必要がある。

そして、入院時からの介入によりA氏は30週頃、B氏は31週頃に「安全と保障の欲求」がある程度満たさ

れた。それにより、マズローの欲求の階層の最下層にあたる「生理的欲求」のうち、清潔のニーズに目を向けることができるようになったと考える。松本ら³⁾は、「看護師が行う清潔ケアによって、妊婦の身体的・精神的拘束感を緩和することができる。ただし、本能的である自分自身や胎児の命の安全性が約束されていることが条件であることを忘れてはならない」と述べている。このことから、清潔ケアは、切迫症状が安定し、安全のニーズを満たしながら行っていくことが必要である。切迫症状が安定した時期が、切迫早産妊婦の1つ目の「節目」であると考えられる。この時期から、清潔ケアについて、安全が保持でき、かつ、満足感が得られるような方法や内容、回数を切迫早産妊婦と一緒に考えていくことが重要である。

A氏は、31週頃より切迫症状が落ち着いたと自覚し、出産や産後の準備についての言葉が聞かれた。B氏は本人が目標としていた32週を超えたこと、清潔のニーズが満たされことから、出産・産後に目を向けることができた。学習のニーズは、マズローの欲求の階層の最上層である「自己実現の欲求」に該当する。このことから、A氏、B氏ともに、「安全と保障の欲求」、「生理的欲求」が最低限満たされたことから、「自己実現の欲求」へ進んだと考える。この時期が、A氏、B氏の2つ目の「節目」の時期であったと考える。切迫症状や治療管理方法、それに伴う精神症状が異なるため、安全、清潔の欲求の出現時期に違いが生じ、2人の「節目」の時期が異なると思われる。佐藤ら³⁾は、「分娩に対する意識づけを妊婦任せにするのではなく、入院中から意識の変化に影響する要因を考慮し、節目を捉え、自信を持って妊娠から分娩へと目を向け自分として意識づけられるような助産師の関わりが重要」と述べている。これらのことから、ニーズを知ることは節目を知ることであり、節目を見逃さずにタイミングよく援助することで、上位の欲求の階層へ進むことができると考える。

VII 結論

1. 入院初期は胎児の安全を1番に考えているため、「安全と保障の欲求」が優先される。
2. A氏は30週、B氏は31週頃より、「安全と保障の欲求」が充足し、自分自身に目を向けることができ、「生理的欲求」である清潔のニーズが出現する。
3. A氏は31週、B氏は32週頃に「安全と保障の欲求」と「生理的欲求」が充足し、分娩・産後に目を向けることができ、「自己実現の欲求」へと進む。

おわりに

本研究は2事例の妊婦を対象としており、対象者数も少ないため、すべての切迫早産妊婦に一般化することはできない。さらに症例数を増やし、援助を通じてニーズを明らかにしていくことが今後の課題である。

引用文献

- 1) 松本留美他：清潔ケアが妊婦の心身に及ぼす影響、京都母性衛生学会誌、12(1)、13、2004
- 2) 秋葉公子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論

の実際、42、廣川書店、1997

- 3) 佐藤加織他：切迫早産妊婦の分娩に対する意識の変化、第36回日本看護学会論文集・母性看護、55、2005

参考文献

- 1) 蓼沼由紀子他：切迫早産により入院中の妊婦の予期的不安、日本母性衛生学会 46(2)、267、2005
- 2) 瀬尾真美子他：切迫早産から正期産に至った母親の状況と意思に関する追跡調査、日本助産学会誌 19(3)、76～77、2006